

月刊 あなたが好き 私が好き 横須賀が好き と誇れる人づくり

2023/1/18 横須賀市教育委員会



1月号

策定に関わった方の思い「検討委員会委員長のまとめ」

今回は、令和3年5月から始まり、計5回を数えた横須賀市教育振興基本計画策定検討委員会（そのうち4回はリモート会議）における検討について、検討委員会委員長に振り返っていただいたコメントをご紹介します。

小林宏己 委員長

早稲田大学
教育・総合科学学術院 教授



自ら物事を考え、判断していく主体性

目指す教育の姿を考えると、これは私自身の教育観の根本になりますが、近年の動きも考えていくと、一人一人の子どもが（実は子ども以上に私たち大人、市民社会がそうなのですが）、自分で、自ら物事を考えて判断していくという、主体性の在り方の問題になるのだと思います。

包み込む、優しさのある多様性

そして、近年のグローバル社会の中で重要視されている多様性という問題です。

ダイバーシティという言葉がありますし、以前から強調されているインクルーシブの考え方、これは日本語的な感覚ではみんな包み込んでいく、寛容性のある社会ということだと思います。

笑顔とか、元気とか、頑張らなくてはとか、こういうことが日本社会では強調されがちですが、その言葉を強調することによって、他方で傷つく人たちが現実にいるわけです。そういう意味では、多様性という言葉や、包摂性のある、ある意味では優しさとか、そういうことを私もっと大切にしたいと思っています。

お互いさまで力を合わせる協働性

そして、これも皆さん異論はないと思いますが、協働性ということです。

いかにコラボレイティブな社会にしていけるか、多様な人たちと力を合わせ、お互いさまとして、立場や意見、思いの違いをどうやってつなぎ合わせていくか。そういった協働性は、非常に大事になっていくと思います。



「横須賀の教育をどうするか」

自信を持ってしっかり発信すべき

この計画は「横須賀の教育をどうするか」なので、地域特性や横須賀の良さを、自信を持ってしっかりと子どもにも市民にも発信していくべきだと思います。

ただ、そのことがある種の押し付けがましさみたいなことに受け取られてしまうことは、私たちの本意ではありません。

「〇〇愛」というものがナショナリズムなのか、それとも人としての自然な、自分の生まれた土地や地域に対する愛情なのか。

当然後者の思いで委員の皆さんも発言されましたし、そういった方向での議論であることをまず共有した上で、横須賀を愛していくことも大切に扱っていききたいと思います。

検討を振り返って

私は、横須賀市の教育に関わらせていただいて、もう20年余りになります。

普段は授業研究という領域が専門ですので、各学校にお邪魔して、現場の先生方と子どもたち一人一人を大切にする教育、それを具現化する授業はどうあるべきか、ということを考えていますが、市の方からいろいろと機会を与えていただき、前回の教育振興基本計画の策定検討委員会でも、委員を務めさせていただきました。

今回は2回目ですし、他に適任の方がいらっしゃるのではないかとということで、一度は事務局の方にお返ししたこともありましたが、この日（最終の検討委員会）を迎えまして、正直ほっとしたと同時に、やって良かったと思っています。

一番は、委員の皆さまと出会えたことです。皆さまが本当に気持ち良く、しっかりとご自身の意見を明確に述べられました。そこには良い意味で多様なもの、ときには対立する点も出てきましたが、これをしっかりと乗り越えながら一致点を見出していくという、そのプロセスを皆さん方自身が作っていかれました。私は、ただゆっくりと皆さんの意見を勉強しながら聞かせていただきましたが、皆さんのご協力があつての賜物だと思います。



教育を止めない

世の中はコロナ禍ということで、もう何年目かに入るわけですが、その中で、日本社会全体で、学校教育・社会教育も含めて、教育の必要性ということが、ある意味では嫌というほど分かったと思うのです。

特に学校教育を止めてしまったら、すべてが止まってしまう。教育を止めない、授業を止めないということが、皆さん共通の認識になったと思います。

そのような状況の中で、次の教育、学校教育・社会教育全体を通してどのようにしていけば良いかという近未来についての見通しを立て、準備をしっかりとしていくという検討を止めなかった、リモートでもしっかりと会を重ねてきたということ、このことも本当に良かったと思います。

最後に対面で会議ができたということも、いよいよコロナ禍も少しずつ、きっと乗り越えられるという兆しではないかと、そんなふうに私自身も受け止めています。

大きな主語から小さな主語へ

皆さんの感想にもありましたが、このような一つの大きな基本の計画ですから、私なりの表現で言うと、どうしても、主語が大きいのです。

ですから、この大きな主語を使って、私たち自身で検討したこの基本の方針、柱、これが今度は実際に計画を実施していく現場の中で、どのような小さな主語が生まれるか。まさに大人も子どもも、現場の中に生まれる小さな主語、この声をどのように丁寧に聴いていくか。そして、そこにいろいろな意味での反省材料を私たち自身が見出さなければいけませんし、それに応えていくためにこの計画があると思います。

計画を実施し、それを評価し、その評価についてどのように反省し、生かしていくかというこのプロセスを丁寧に、事務局を中心にしっかりと積み上げていただき、私たちが一番意見を重ね、しっかりと作ってきた、この「あなたが好き 私が好き 横須賀が好き」という語順や、「好き」という言葉に込めた私たちなりの願いが、横須賀市内の一人一人の市民、子どもたちに実現していくことを、私自身も強く願っています。

次号「教育委員の思い」へ続く

